

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

30号

2018年3月10日



● 目 次 ●

公益信託「高知市まちづくりファンド」 2017年度 中間発表会

プレゼンテーション

- A「学生まちづくり」コース p. 3
- C「まちづくり一歩前へ」コース p. 3
- 運営委員のコメント p. 6
- 2017年度 中間発表会を終えて p. 6

- 公益信託「高知市まちづくりファンド」
2017年度(15回)最終報告会の予定 p. 8
- 2018年度(16回)の予定 p. 8

公益信託「高知市まちづくりファンド」 2018年度 中間発表会

2018年1月21日(日)、公益信託「高知市まちづくりファンド」2018年中間発表会を開催しました。多くの団体・関係者が参加し、和やかな発表会となりました。

1 プレゼンテーション

各団体とも持ち時間3分間で活動発表を行います。
その後、参加者は各事業について良い点・質問・提案などを付せんに記入します。



2 付せん貼りタイム

各自が書いた付せんを団体(各事業)別シートに貼ります。



3 意見交換

運営委員の司会により、貼られた付せんの内容をもとに、意見交流を行います。



★ 高校生の活躍 ★

今年度の助成団体である9団体のうち2団体で、高校生によるプレゼンテーションが行われ、世代を越えてまちづくりに参加している様子はとても頼もしく見えました。



西畑夏祭り実行委員会

はるのあじさいコミュニティクラブ

A 学生まちづくりコース

GROUP A1 高知大学ほたる飛ばし隊!!



ほたる飛ばし隊は現在、朝倉地区を中心とした「ほたるマップ」の作成を行っており、ほたるの観賞マナー、図を用いたほたるの生態についての説明、ほたるのイベントに関する情報なども掲載する予定である。

マップ作成中に内容の追加やレイアウトがなかなか決まらなかったため最初の予定よりもマップの完成が遅れてしまい、印刷する時期

ほたるを通して地域とつながる

も遅れると予想されるが、3月までには配布までできるようにしていきたい。

ほたるマップの完成後は各地のほたるイベントへの参加、また大学生向けや地域の方、小学生向けのイベントを開催しマップを活かした活動をする予定で、他団体や地域の方とのつながりを今よりも広げた活動をしていきたいと思う。

参加者の声

- ほたるマップ、鑑賞マナーなどほたる環境PR、発信の取り組みが素晴らしい

Q&A

- Q:** 高知市のほたるの歴史ってどんな内容か
A: ほたると環境の視点から、以前は飛んでいたが今は飛んでいない場所やその理由など

GROUP A2 学生団体「KOCHIのZOU (こうちのぞう)」



活動目的は地域活動に参加する学生の増加で、高知県立大学の学生を中心に、下知地区で学生と地域の方との交流の場づくりに取り組んでいる。これまで、毎週1回、小学生が大学生と宿題をした後にイベントの準備を行い、2カ月に1回、夏祭りや秋祭り、ハロウィン、防災など様々なテーマの地域のイベントに参加し、合計11の地域団体や地域商店と学生や学生の保護者に交流の場を提供

した。地域を支える次世代の担い手不足は、各地域の共通課題である。今どんな人が地域を支えてくれているのかを知ること、地域での楽しい思い出や企画経験を増やすことが、この問題の改善に寄与すると考える。平成29年度には、高知市長や各地域の町内会長に活動紹介の機会もあった。引き続き活動していく。

地域活動に参加する学生を増やすぞう

参加者の声

- 大学生が地域に出て活動してくれていることを知り、私の地域にも来て欲しいと思った

Q&A

- Q:** まちづくりファンドに参加する前と後では、どんな変化があったか
A: まちづくりファンドの助成団体ということで信頼度があがる

C まちづくり一歩前へコース

GROUP C1 高知ビッグバンド



我がバンドの文化活動(演奏活動)のテーマである「豊かな暮らし創り」を実践する。その目的は、まず「外に出てきてもらい」更には「何かをしよう」という意識をもってもらい、対象とする人々に社会性を感受してもらう活動を実施することです。8月には「布師田納涼祭」の地域イベントに参加。1千人を超える来場者があり、盛況でした。4月には「こ

高齢者による高齢者、地域住民のための豊かな暮らし

うち駅前広場」にて「食エグランプリ」に協賛して参加致します。内容は、高齢者障害のある人たちの歌伴、更には社交ダンス愛好者との共演と内容の濃い演奏となります。6月には同様のプログラムで桂浜公園のステージでライブを実施いたします。

年内には、我がバンド等に賛同していただけるNPO(企画運営)が設立される予定です。

参加者の声

- 音楽を用いて暮らしを豊かにするという発想がユニーク
- 楽しいイベントでいい。いつか聞かせていただきたい

Q&A

- Q:** 目的である高齢者障がい者の姿が見えない。観光地でのライブはちょっと主旨と外れているのかも?
A: 引きこもりがちになる高齢者や障がい者を外に連れ出して楽しんでもらうことを目的としている

GROUP
C3

はるのあじさいコミュニティクラブ

産官学民連携によるあじさいの花復活を通じた地域コミュニティ活性化事業



活動を地域住民へ周知するための広報看板を作成しました。地元の看板製作会社の手助けで中古の看板枠に春野高校生がパソコンで作成した原版をデジタル加工してラッピング仕上げました。当初は、生徒による手書き看板を作成するつもりでしたが、木製コンパネにカッターで切り取り取った図案を写し、ペンキで塗ると字がにじんだり写真がはっきり写ら

なかったので方針を変えました。12月に高知市中央公園で農業教育フェアが開催され、看板を掲示しアンケートを実施したところ多くの方から活動に対する好評価をいただきました。1月に高等学校産業教育生徒研究発表会では、これまでの活動が評価され農業分野「入交太兵衛記念賞」を受賞することができました。

●参加者の声●

- 高校生と地域の方が一緒に活動しているようで楽しそう。あじさい街道が身近になった。
- プレゼン上手い! 写真も大きくて見やすく、枚数も丁度良い

●Q&A●

- Q:** メンバー構成が知りたい
A: 50代・60代が中心になり、高校生は授業の一環としても取り組んでいる
Q: 看板内容をもう少し端的に表現できるといいかな
A: 子どもたちの思いを込め、盛りだくさんになった

GROUP
C4

西畑夏祭り実行委員会

西畑花取り踊りの復活、祭りの再生



助成金をいただき、8月6日、西畑子ども会、西畑花取り踊り保存会16名で練習用の木刀を作った。また、土佐市蓮池太刀踊り保存会の踊りや歌を習った。西畑の踊りを覚えている方々に何度も見てもらい、「しのぎ」の演目は昔踊っていた西畑独自のものである。12月30日に今踊れる踊りを地域の方々に見てもらった。

証をいただくことができ、新しい刀ではなく地域の刀を使えるようになった。変更したい点は、これから一緒に踊ってくれる若いメンバーを増やし、後継者育成に使っていく舞踊刀が5本欲しいと思う。問題点としては、花取り踊りを大切に思い、後世に続く若いメンバーをどのように増やして行くかということが今後の課題だ。

変更点は地域の方から刀身を譲り受け登録

●参加者の声●

- はっきりとした口調で分かりやすい発表だった。希望が伝わった
- 郷土の伝統芸能を後世に残したいと意欲的に取り組んでいることに感銘を受けた

●Q&A●

- Q:** 小中学校や高校などでも披露してみてもっと若いメンバーが増えてくれるかも
A: 小学5年生も参加している。中学校に出前授業をして活動をPRしている。大学や高校・中学生も巻き込んで活動を広め、日本中の伝統芸能を経験値をもって広めることができれば、と考えている

GROUP
C6

高知地域猫の会

人と猫が共存できる街づくり ～地域猫活動～



11月、第2回高知地域猫セミナーを高知市と共催で開催し、啓発・広報活動を行った。一般市民、ボランティア、町会関係者、県内各市町村の行政職員、議員と多方面から参加頂き、セミナー後に実際に活動を始めたいという個人や自治体からの相談も複数寄せられ、今後協力していくことになった。また、新たに1地区で地域猫活動に着手。住民自らが

住民説明会を開催、町内広報、手術費用の捻出、TNRを主体的に行い活動を継続させていくとともに、猫を介した新たなコミュニケーションが生まれている。その他、個人への手術等支援を高知市、南国市、いの町で実施しており、個人活動から地域猫活動へと発展していくようサポートを続けている。

●参加者の声●

- 町内費で手術代が払われることは嬉しい。活動自体に大賛成
- 活動の情報発信に止まらず、活動団体のサポートまで行っているのは良い!ガンバってください!

●Q&A●

- Q:** 一般向けのセミナーで多くの関心のある人を集めていてすごい。どのように人を集めているのか?
A: 新聞広告などを利用して、猫で迷惑を受けている人に呼びかけるようチラシなども工夫している
Q: 避妊去勢手術後、責任をもって飼育しているのか
A: 飼い主がいない猫なので飼育ではなく、エサやりさんが管理・見守りをしている

特定非営利活動法人 井戸端わもん

井戸端わもんを食卓へ
聞き合う文化を地域社会にプレゼント

2つの井戸端わもんの話の聞き方「最後まで聞く」「責めずに聞く」を高知の皆様へ届け、日常で使っていただく活動をおこなっています。これまで助成事業として、市民活動をされている方同士の交流会。話の聞き方教室を活動しました。話を最後まで聞くことで相手のことを思い込みなく聞くことができること。

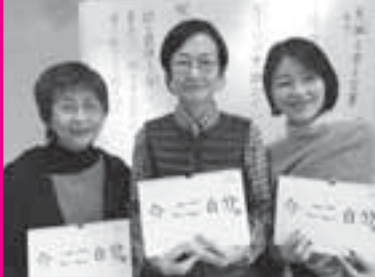
言葉のみならず話し手の思いを感じることなど、従来の聞き方では得られない体感を体験いただきました。引き続きこれから後半は、広報に必要な印刷物も企画しながら、高知の企業、団体、個人の方へ、この活動を伝えるPR活動を活発化し、より多くの方々に伝える機会を増やしていきたいと思ひます。

●参加者の声●

- 呼ばれたら講演をしに行くというフットワークの軽いところがいい
- ワンコインで話の聞き方を習うことができるのはとても得なことだと思う

●Q&A●

- Q: 広報活動の促進を問題点としていたが、改善策は?
- A: 一つ一つの団体とつながることで上げていきたい
- Q: 話が長い人の場合には、どのように終わらせるのか
- A: その方の思いに寄り添ってただただ聞く。その場ですべて解決をするわけではなく、この聞き方を持って帰って日常で使って貰う活動をしている



特定非営利活動法人 要約筆記 高知・やまもも

要約筆記でバリアフリーのまちへ



中途失聴者・難聴者が聞こえないことで地域社会の中で孤立する状況とその支援のための要約筆記周知の広報をした。

持ってくれた人もいた。今後はイオン高知旭町店で2月から催事場を借り、要約筆記のデモや体験、PPT紙芝居などを買い物客層にも興味関心を持ってもらうために数回実施する。また、同時にアンケートを実施し社会的認知度や事業の効果をはかる。こうしたことを通し、広報と共に感触や結果を次の活動に生かしていかなければならないと考える。

メディアによる広報として週2回通勤時間帯にラジオCM(FM高知)放送を開始。ホームページのアクセス数の増加があり一定の効果があった。また、直接的な広報では9月開催のボランティアガイダンスに参加し興味を

●参加者の声●

- イベントでデモや体験を通して知ることができるのはとても良い。実際に体験することでより理解が深まる
- ユーザーの声、誰のどんな役に立っているか発信できたら良いのでは

●Q&A●

- Q: 今後の事業展開の具体的な企画は?
- A: 動画や紙芝居などの分かり易い体験や手話の団体、学生とも一緒にイベントを行う予定
- Q: 適性があると思うが、どんな点が大事か
- A: 要約筆記の養成講座は84時間かかるのでしっかり時間を作れる方がよいのでは



シアターTACOGURA (シアターたこぐら)

アート×地域。キャンプ・防災減災プログラム



10月に県内の小学生対象『防災キャンプ・防災減災演劇発表会』を実施。演劇を交え、楽しみながら防災の知識を学んでもらった。参加した子どもの保護者からは「子どもを通して防災意識が高まった」などの感想があり、子どものエネルギーとアートの力を活かした活動に手ごたえを感じた。12月には特別講師による『防災ママカフェ』を実施。東日本大

震災の体験から、子どもの命を守るためのリアルな知恵と情報を子育て世代に分かりやすい「ママ語」で伝えた。協力団体として高知大学や藁工ミュージアム、下知地域に協力が得られたことも大変心強かった。今後も連携を図り、継続的な学習を行い、防災減災プログラムの完成を目指し取り組んでいきたい。

●参加者の声●

- アート活動と地域との連携は素晴らしい。ハブになっている。これからも楽しい企画を進めて下さい
- キャンプという楽しい活動の形で子どもたちが防災・減災について興味を持つよい機会になると感心した

●Q&A●

- Q: サポータークラブ、いま何人ぐらい?どんな方たち?
- A: 15名程度。大学生や参加した保護者の方たち。藁工ミュージアムや下知地域内連携協議会の皆さん
- Q: 地域の自主防災などの学習会にも来てくれるのか
- A: 今後、防災減災プログラムが完成すればそういう活動をしたい。目指している



● 運営委員のコメント ●



運営委員長 増田 和剛

高知中・高等学校教諭

高知県の15歳以下の人口が減少傾向にあるデータを見る機会がありました。まちづくりは人づくりといいますが、活動を継承していく子どもたちの数が減少していく事態を今後どのように受け止め、今やらなければならないことは何か？ 将来の活動を見据えた取り組みが求められています。



副運営委員長 堀 洋子

社団法人高知県建築士会

今回の中間発表会は以前と比べ活動しながら内容を修正し次年度活動の継続に向けて取り組まれている団体が多いと感じました。又高校・大学生の方が地域の中で活発に活動されている様子が伺えました。特に高校生の発表が言葉・内容ともに明瞭で地域活動の意欲的な様子が伝わって感動しました。



運営委員 石川 貴洋

認定NPO法人環境の杜こうち

活動が順調な団体もそうでもない団体も、立てた企画をこなしたり取り繕おうとするのではなく、目的を見据えて臨機応変に、あるいは暗中模索しつつ、それぞれに前に進もうと考え、動き続けようと活動していることが伝わってくる報告会でした。あきらめず今より1ミリでも前に進むことができれば、まずはまちづくり活動は成功。がんばりましょう。



運営委員 片岡 照敏

社会福祉法人てくとこ会
自立訓練施設てくとこ・せと

今回発表をされた9グループとも、これまで順調に助成事業を推進されています。今後残された時間で、発表会で出された、良いところはさらに磨きをかけ、質問や提案を参考に改善を加えて事業を完了させての、7月の最終報告会での白熱のプレゼンを楽しみに待っています。



運営委員 坂本 萌

高知大学人文社会科学部

今回の中間発表では、特に若い世代の活躍が印象に残りました。同年代の私としてはとても嬉しく、また私ももっと頑張らなければと強く刺激を受けました。さらに今回、他団体とのつながりの重要性を皆さんの発表から学ばせていただきました。まちファンでできたつながりを大切に、今後の活動につなげていってほしいと感じます。



運営委員 三谷 英子

学校法人三谷学園
RKC調理製菓専門学校

自分たちの地域を少しでも住みやすくしたいという熱い思いや、しっかりと地に足の着いた活動の数々に感銘を受けました。高校生から大学生、年配の人まで、それぞれ個性豊かなプレゼンテーションにも感動。地域での連携が着実に進んでいる様子もうかがわれ、元気をいただきました。最終発表会が大変楽しみです。

※四宮成晴運営委員、宮地貴嗣運営委員、山中雅子運営委員は、都合により欠席されました。

交流会

初の「まちファン交流会」開催さる

石川運営委員

中間報告会の後、助成団体や卒業団体の皆さん、運営委員と事務局の方々が参加した交流会が開かれました。審査会や報告会以外の場で、団体の皆さんと私たち運営委員が交流するのは、実は初めてのこと。現役の助成団体と卒業団体が集まって話す機会も少なかったのでは。しかしそこはまちづくりに思いを持つ者同士、じきにそこそこで話の輪が開き、まちファン15年の歴史が紡いだ“まちづくりの輪”を実感するひと時となりました。



中間発表会を終えて

運営委員長 増田 和剛

このファンドは15年目となりましたが、まだ1〜2年目で頑張っている団体の、その成長過程を認識していくことも大切です。

中でも、「学生まちづくりコース」は、助成金額は5万円なのですが、実際にはそれ以上の活動をしています。全てを形にしていくのはなかなか難しくても、それでも形にしようとしている姿勢に感動しています。

①「高知大学ほたる飛ばし隊!!」は、課題を見つけ、連携先を広げていくことよって活動自体も大きく広がりを見せると思います。

②「学生団体KOCCHIのZOU」は、交流の場を作り、根付いていく活動。積極性があると周りの人を動かすことができ、また、それを受け止める地域があるということも発見です。

「まちづくり一步前へコース」は、まちづくりにどうかかわっていくか、どう生かそうとしているか、というところに価値があります。

①「高知ビッグバンド」は、音楽もアート。アートには力があります。そして、活動にはキーパーソンの存在も欠かせないようです。

②「はるのあじさいコミュニティクラブ」は、地域の若者たちの熱意が伝わり、周りを動かす力となる。これが元気な町につながっていくのではないのでしょうか。

③「西畑夏祭り実行委員会」は、まちづくりに関心を持つている大人の姿を見て、若者たちも一緒に消えかかっていた伝統文化を守っていく、と頑張つて

います。

④「高知地域猫の会」は、課題を地域に投げかけて地域の人達と協力をし、地域力を上げていくという大変な事業です。行政の参加にも期待をします。

⑤「井戸端わもん」は、人の話を最後まで聞くということとは難しく、これは気づきの活動であり、人づくりでもあります。

⑥「要約筆記 高知・やまもも」は、必要としている人がいる限り、この活動は無くなりません。また、CMの効果も数字で表した「見える化」により、分かりやすい報告でした。

⑦「シアターTACOGURA」は、アートといっても難しいことではなく、大人も子どもも感じる力を持つているものです。高知のまちづくりのキーワードの一つと言えるでしょう。

「学ぶ」ことにより、新たな課題を見つけていくことができます。他団体の報告から自分の団体に置き換え、考え、それらを持ち帰ることもこの中間発表会の大事な役割です。そして継続するために必要なのは「人づくり」。次の世代を担う子どもたちが今何ができるのか。子どもたちが大人の姿を見て成長していく瞬間を逃してしまわないよう、活動の大切さを伝えていく必要があります。

高知で行われている様々な活動が、どこかでつながっていくことを願っています。

中間発表会アンケートから

- 資料作りから始まり、発表や質疑に対する回答など回を重ねるごとに少し上手くなってきている気がする。
- 3回までしか応募できないのが残念。
- 今回の発表により、自分たちの活動を改めて見直すことができ、今後のビジョンを立てやすくなった。
- 活動内容などに対して客観的な意見や指摘をいただいて新たな気づきを発見することができ、とても良い機会になった。
- 各団体が取り組む様子がよく分かった。自分自身ももっともっと勉強し、地域のために取り組んでいきたい。
- 各団体の活動内容や課題など、広く話が聞けて、私たちの今後の取り組みの指針となった。
- 特に活動のコンセプトとこれをどう実践にうつし、どういった効果が生まれることが重要なのかを認識した。
- 高校生の積極的な活動への参加があり、若い人たちを巻き込んだ活動が多く、自分の団体でももっと他の人たちとの関係を作っていく必要性を感じた。今日の意見等を参考に今後の活動を改めて見直していきたいと思う。

この他にもたくさんの感想やご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の運営の参考にさせていただきます。

公益信託「高知市まちづくりファンド」

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「高知市市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、市民同士の交流やまちづくりの学びの場となることを目的として、高知市を住みよいまち、豊かな地域社会にするための活動に助成するというものです。第15回となる2017年度からは、従来の4コースに加え、より多くの市民がまちづくりに参加するきっかけ作りを目的とした、「まちづくりたまごコース」を新設しました。

●●● (E) まちづくりたまごコース ●●●

身近なまちづくり活動に取り組むにあたって、必要な経費を支援します。(例: 事前学習会、企画の準備・計画など)

助成金額	上限3万円
審査方法	書類審査で助成先を決定します (申し込みから1ヶ月程度要します)
応募期間	8月1日(水)～12月25日(火)
助成対象期間	助成決定日～2019年2月28日(木)

※必ず事前相談を受けてください(要予約)。

A 学生まちづくりコース	B まちづくりはじめの一歩コース	C まちづくり一歩前へコース	D まちづくり拠点整備コース
活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない学生団体の活動を支援します。構成員のうち3名以上が18歳以上の学生であること。	活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない市民団体の活動を支援します。	市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援します。1事業3回まで助成を受けることができます。	まちづくりの活動拠点を整備する事業を支援します。
助成金額 上限5万円	助成金額 上限5万円	助成金額 上限30万円	助成金額 上限100万円
審査方法 書類審査で助成先を決定します。助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。	審査方法 書類審査で助成先を決定します。助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。	審査方法 公開審査会で活動内容の発表をしていただきその場で助成先を決定します。	審査方法 公開審査会で活動内容の発表をしていただきその場で助成先を決定します。

2018年度(第16回)予定 A・B・C・Dコース共通 : 2017年度(第15回)予定

応募受付	4月 2日(月)～6月22日(金)
事前説明会(要予約)	5月13日(日) 10:00～11:30 5月16日(水) 19:00～20:30
公開審査会	7月22日(日) ※詳細についてはお問合せください。

最終報告会	7月21日(土)
-------	----------

まちファン29号の助成額および助成額合計について誤りがありました。

【C】まちづくり一歩前へコース No.9シアターTACOGURA
助成額が294,000円から294,700円に助成額合計が2,144,000円から2,144,700円にお詫びして訂正いたします。

まちづくりファンドは皆様のまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐(しゅつえん)された基金を、毎年取り崩しながら助成しています。少しでも長く、市民のまちづくり活動に活かせられるよう、多くの皆さまのご寄付をお願いいたします。

寄付に関するお問い合わせ・お申し込みは、下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行 個人サポート部 信託担当
TEL.088-871-2067 (直通) 〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1

高知市市民活動サポートセンター

市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。「認定特定非営利活動法人NPO高知市民会議」が運営を担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

発行・お問い合わせ先 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862
高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
TEL.088-820-1540 FAX.088-820-1665
E-mail: info@shiminkaigiorg
URL http://www.kochi-saposen.net/